

# 子供の自律を促す父親の態度を子供が認知することは 心理社会的課題の解決と関連するのか？

中 川 雄 真

Is a child's perception of a father's attitude that encourages child  
autonomy related to psychosocial task resolution?

NAKAGAWA Yuma

2022年10月25日受理

## 抄 録

現在、日本の家庭における父親の存在は希薄化の傾向にある。本研究の目的は、父親の子供に対する自律性援助行動を子供自身が認知することは、子供の心理社会的発達にどのように影響を与えるのかを調査することであった。

大学生150名を対象として、父親からの自律性援助測定尺度、およびラスムッセンの自我同一性尺度日本語版を使用して集団質問紙調査を実施し、共分散構造分析を実行した。結果、父親の子供に対する自律性援助行動を子供自身が認知することと、子供の心理社会的発達における信頼性、自律性、自主性、同一性、親密性との間には関係性があることが示された。

現代日本においては女性の社会進出に伴い、育児だけではなく経済的な面においても母親の存在が大きくなっていると推察されるが、子供の健やかな心理社会的な成長を促すためには、父親の積極的な育児参加が望まれる。

キーワード：父親、自律性援助態度、心理社会的発達、育児参加、共分散構造分析

## 序 文

17、18世紀に工場生産がイギリスに導入されたことを契機に産業革命が起こり、日本は共同経済体制的な農業や牧畜を中心とする大家族の体制から、家の外で金銭を稼ぐ父親と、育児を主として子育てをする母親のいる核家族的体制へとシフトした<sup>1)</sup>。また、戦後には欧米の価値観の流入や日本復興を目的に女性の社会進出が促され、育児だけではなく経済面においても父親の存在が希薄となった。そして、父親の姿が家庭から薄れ子供への影響力が低下するとともに、ニート、パラサイト・シング

ル、フリーター、引きこもりなどに定義される若者が増加傾向であることが指摘されはじめた<sup>2)</sup>。

父親の役割について、Mahler は子供の分離 - 個体化発達モデルを唱え「子供にとって父親は母親ほど近い存在ではないものの、他人ほど離れた存在ではなく、子供にとって特殊な愛着の対象であり、子供は父親に興味を示していくことによって母親との密着から離れ、外界に興味を示していく」と述べている<sup>3)</sup>。また、Parson はシンボルとしての父親の機能を取り上げ、父親は母親に対する初期の愛着とそれに伴う依存欲求を断念させることで、子供を自立へと導く存在であると唱えている<sup>4)</sup>。さらに、河合は仏教を母性原理が強く反映されたものであり、キリスト教を父性原理が強く反映されたものであると指摘するとともに、母性は子供を包み込み保護するもの、父性は母親と子供の密着関係を切り離すものであると述べている<sup>5)</sup>。このように、母親は子供を受容し子供と密着する存在である一方、父親は子供の自律を促し、母子間の密着を緩める存在であると唱える説が散見される。

## 目 的

父親は子供の自律を促す存在と考えられ、父親の自律を促す態度が子供の発達にどのように関係しているのかを明らかにすることは、家庭における父親の存在が希薄となった現代社会において重要な課題である。しかし、父親の自律を促す態度を子供が認知しているのかについて焦点を当てた研究は少なく、特に父親の自律を促す態度が子供の心理社会的な発達とどのように関連するのかは未だ明らかとなっていない。よって本研究では、Erikson が提唱した心理社会的発達課題を指標に<sup>6)</sup>、父親が子供に自律援助的な養育態度をとっていると子供が認知することが、子供の心理社会的発達課題の解決とどのように関連するのかを調査する。

## 方 法

### 研究参加者

A 大学に在籍する大学生 150 名を対象に集団質問紙調査を実施した。

### 質問紙内容及び測定尺度

本調査では、父親からの自律性援助測定尺度を採用した<sup>7)</sup>。父親からの自律性援助測定尺度は父親が子供の自律の重要性を理解し、子供を一人の人間として認めるような養育態度であったかを、子供の視点から測定することを目的として作成された。20 項目 1 因子から構成され、6 件法で評価する。

また、本調査ではラスムッセンの自我同一性尺度日本語版 (Japanese version of Rasmussen's Ego Identity Scale ; REIS) を採用した<sup>8)</sup>。REIS は Erikson の発達漸成理論図式における 8 段階のうち、乳児期、幼児前期、幼児期後期、学童期、青年期、

成人前期の6段階を対象として、各段階の心理社会的課題となる信頼性、自律性、自主性、勤勉性、同一性、親密性の解決度を測定することを目的として作成された。67項目6因子から構成され、7件法で評価する。

### 倫理的配慮

研究参加者が受講する講義の担当者に事前に許可を取り、講義受講中に本調査を実施した。その際、1. 質問紙の内容は、あなたの人生の捉え方、親との関わり合いに関する簡単なアンケートであること 2. 知能や性格などを測定することが目的ではないこと 3. 質問に対する回答は全て匿名のものとして扱うこと 4. 本質問紙への回答は任意であり、回答しないことで不利益が生じることはないこと、を研究参加者へ伝えた。

### 統計解析

父親からの自律性援助測定尺度の得点を独立変数、REISの得点を従属変数として共分散構造分析（パス解析モデル）を使用し、統計解析を実施した。なお、統計解析には統計解析ソフト SPSS Statistics 25（日本 IBM, 東京都）を使用した。

## 結 果

### 研究参加者の基本属性と尺度得点

研究参加者のうち、男性は21名、女性は129名であり、平均年齢は18.75歳（SD 1.2）であった。また、父親からの自律性援助尺度の平均点は86.2点（SD 13.4）であり、REISの平均点は信頼性が45.6点（SD 7.4）、自律性が41.1点（SD 7.8）、自主性が51.6点（SD 7.5）、勤勉性が49.4点（SD 8.3）、同一性が51.8点（SD 9.5）、親密性が41.5点（SD 7.1）であった。

表1 父親からの自律性援助尺度と REIS の平均点と標準偏差 (n=150)

|            | 平均値 (SD)    |
|------------|-------------|
| 父親からの自律性援助 | 86.2 (13.4) |
| 信頼性        | 45.6 (7.4)  |
| 自律性        | 41.1 (7.8)  |
| 自主性        | 51.6 (7.5)  |
| 勤勉性        | 49.4 (8.3)  |
| 同一性        | 51.8 (9.5)  |
| 親密性        | 41.5 (7.1)  |

### 父親からの自律性援助態度と心理社会的発達課題の因果関係

父親からの自律性援助測定尺度の得点、および REIS の得点を指標として共分散構造分析を実行し、最も適合したものをパス図として図 1 に示した ( $p = 0.491$ ,  $GFI = 0.968$ ,  $AGFI = 0.934$ ,  $RMSEA = 0.047$ ,  $AIC = 2.129$ )。父親からの自律性援助態度の認知は親密性の課題解決への影響が最も強く (0.38)、次いで同一性の課題解決 (0.35)、自主性の課題解決 (0.34) の順で強く影響を与えていた。

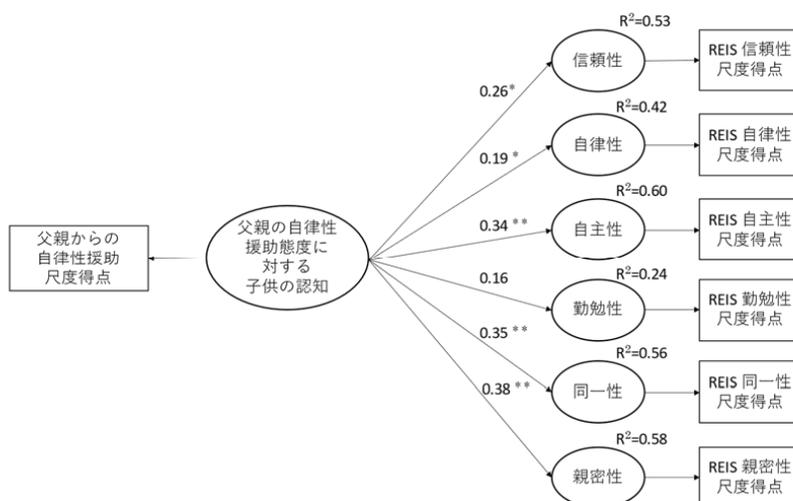


図 1 共分散構造分析を使用した父親からの自律性援助態度の認知と心理社会的発達課題の仮説モデル

矢印は因果関係 (パス), □は観測変数, ○は潜在変数を示す。

モデル適合度  $p = 0.491$ ,  $GFI = 0.968$ ,  $AGFI = 0.934$ ,  $RMSEA = 0.047$ ,  $AIC = 2.129$ , \*  $p < 0.05$ , \*\*  $p < 0.01$

## 考 察

本研究では、父親が子供の自律を援助していると子供自身が認知することが、どのように子供の心理社会的発達と関連するのかを調査した。結果、父親の自律性援助態度と子供の心理社会的発達の間には因果関係が認められ、特に自主性、同一性、親密性と父親の自律性援助態度には強い関係性が示された。

### 父親の自律性援助態度と自主性との関係

Erikson は自主性を「欲しいと思うものにはひるむことなく、しかも今までよりもずっと正確な目標に向かって妥協なく努力するようになるもの」と定義するとともに<sup>6)</sup>、自主性の発達には「父親と息子との間には仲間意識が生まれ、タイムスケジュールでは同等ではない (inequality in time schedules) が、価値という点では同等だ

(equality in worth) という経験が必要」であると述べている。子供は、自身で定めた目標に向かって努力する過程で、父親と異なった考えや感情を抱いた際には、父親の期待と異なった行動を選択すると考えられる。この際、父親が自身の意見を押し付けず子供の意見に耳を傾けることは、父親からの自律性の援助であると子供が認識することにつながり、結果として父親と子供の対等な関係が構築され、自主性が育まれると考察する。

### 父親の自律性援助態度と同一性との関係

同一性は、他のものから対立区分されていることで変わらずに等しくある個の性質、と定義されるが、心理社会的発達過程においては「自分が自分であると感じる自分に比べて、他人の目に自分がどう映るかとか、それ以前の時期に育成された役割や技術を、その時代の理想的な標準型にどう結びつけるかといった問題に、時には病的なほど、時には奇妙にみえるほどとらわれてしまう性質」とも定義される。よって、自身が何者でありどのような存在であるのかを子供が確信するためには、自身の内面を省みるのみでは不十分であり、他者や社会といった外的な価値観と自身を照らし合わせる必要があると考えられる。

Mahler は父親を子供にとって最も近い第三者的な存在であると述べていることから<sup>3)</sup>、父親からの自律性援助態度を認知することは、子供の内的な価値観と、外的な価値観が一致しているという確信を子供に与えている可能性があると考えられる。父親が子供を否定し支配的に扱うことは、子供の内的な価値観と、外的な価値観の不一致を引き起こし、同一性が拡散すると推測する。子供にとって、父親に認められているといった実感は、外的な世界において自身の存在価値が認められたという実感へのつながりになると考える。

### 父親の自律性援助態度と親密性との関係

心理社会的発達において、親密性は「異性との真の親密さ (intimacy) が可能になるのは、適切な同一性の感覚 (reasonable sense of identity) が確立した後である」と定義される。よって、親密性は相手を支配する、もしくは支配されるような関係ではなく、お互いが一人の人間として確立することで初めて達成できる課題であると考えられる。以上のことから、父親の自律性援助行動を子供が認知することは子供の内在的モデル化につながると推測され、子供は自身が父親にされたように、自身も他者に接する準備が整うのだと考察する。

## 結 語

父親が子供の自律を援助する態度をとっていると子供が認知することは、勤勉性を除いた信頼性、自律性、自主性、同一性、親密性の心理社会的発達課題と関連していることが示唆された。

近年、共働きが一般的な家庭の在り方となる中で、子育てだけではなく経済面も母親が担うようになった一方、父親の存在が希薄化している。しかし、子供が心理社会的に健やかに発達し、自己を確立する一因として、父親の子供に対する自律性援助態度を子供が認知する、という経験が必要である可能性が示された。

近代化が進み父親と子供の心的な距離が離れつつある日本において、子育てにおける父親の役割を今一度見直すことは、現代日本における一つの課題である。父親の自律性援助態度を子供が認知する機会を設けるためには、父親の積極的な育児参加が望まれる。

### 今後の課題

本研究では男性の研究参加者が少なく、男女差の検討が未実施である。また、本研究では父親の子供に対する自律性援助態度について検討を実施したが、母親の子供に対する自律性援助態度については検討しておらず、父親と母親における役割の差異については不明瞭な状況である。よって、今後の研究では男女差について検討するとともに、父親・母親における差異についても調査を実施する。

### 文 献

- 1) 尾形和男 (2011). 父親の心理学 . 北大路書房
- 2) 小杉礼子 (2003). フリーターという生き方 . 東京 : 勁草書房
- 3) Mahler.M.S(著)高橋雅士(訳)(1981). 乳幼児の心理的誕生—母子共生と個体化 . 黎明書房
- 4) Parson,T(1954).The father symbol: An appraisal in the light of psychoanalytic and sociological theory.In L.Bryson, L. Kinkelstein, R. MacIver, & P.Makron(Eds.),Symbols and Values.NewYork:Harper&Row
- 5) 河合隼雄 (1999). 中空構造日本の深層 . 中央公論社
- 6) Erikson.E.H(1973). 小此木啓吾 (訳). エリクソン 自我同一性 . 誠信書房
- 7) 櫻井茂男 (2003). 子供の動機付けスタイルと親からの自律性援助との関係 . 筑波大学発達臨床心理学研究 .15,25-30
- 8) 宮下一博 (1987). ラスムッセンの自我同一性尺度日本語版の検討 .Japanese Journal of Educational Psychology,35,253-258